

教科名	理科	科目名	生物基礎
対象	全スタイル	年次	2(本校) 3(連携)
添削指導(回)	6	面接指導(単位時間)	8(メディア活用時4)
単位数	2	備考	必履修科目
教科書・補助教材等	新編生物基礎(東京書籍) ニューサポート 新編生物基礎(東京書籍) 新編生物基礎DVD		
学習の目的	(1)日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。 (2)目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 (3)生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学期	月	学習内容	学習のねらい・目標
前期	4	オリエンテーション 1編 生物の特徴 1章 生物の共通性 2章 生命活動とエネルギー	・すべての生物は「細胞」からできているという共通性を理解する。 ・細胞の構造を知ることにより、原核細胞と真核細胞、動物細胞と植物細胞の共通性と多様性を理解する。
	5	2章 生命活動とエネルギー	・細胞内では分解や合成などの代謝が行われ、その際同時にエネルギーの出入りや変換を伴うことを理解する。
	6	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子	ヌクレオチドの構造やDNAの二重らせん構造、塩基間の相補性について理解する。
	7	2章 遺伝子の均等配分	・DNAの構造が遺伝情報を担いうる特徴を持っていることを理解する。
	8		
	9	3章 タンパク質の設計図	・タンパク質合成に際して、DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換えられることを理解する。

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標
後期	10	3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境の維持	・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系がかかわっていることを理解する。
	11	2章 体内環境を保つしくみ	・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系がかかわっていることを理解する。
	12	3章 体内環境を守るしくみ	・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系がかかわっていることを理解する。
	1	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性	・生物の集団と非生物的環境が互いに関係して、生態系をつくっていることを理解する。
	2	2章 気候とバイオーム 3章 生態系とその保全	・生物の集団と非生物的環境が互いに関係して、生態系をつくっていることを理解する。
	3	復習	
学習上の留意点		中学校での既習事項を確認しながら、学習を進める。 科学史の内容にも触れ、生徒の興味関心を引き出す。 学習を通じて、自分の健康について考える機会とし、保健「現代生活と健康」や総合的な学習の時間との関連をもたせる。	
評価の観点			評価方法
主体的に学習に取り組む態度	各学習や実験・観察にのぞむ態度、興味関心を持って探究しようとする姿勢		レポートの評価、面接授業の参加状況と定期考査の出題範囲における習得の状況を評価から、総合的に評価する。
思考・判断・表現	定期考査、授業中の質問に対する回答、レポートの考察など		
知識・技能	実験や観察における実験機器の操作、レポートなど 定期考査の成績、小テストの成績、レポートなど		

RITA 学園高等学校